

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。

めざせ、均等待遇

なくその差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

# 「何とか乗り切った」?

## 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 3819  
18年1月9日(火)  
・Fax 095-828-1953

おはようございます。  
2018年がスタートしました。年賀状の販売は終了しましたが、まだまだ物増の業務が続きます。  
例年この時期に体調を崩す方が多くいます。マスクや手洗いで予防はもちろんです。万が一、発熱があった場合は感染を防ぐためにも仕事を休むようにしましょう。

12月からのお歳暮ゆうパック繁忙は想定外の物量だった。会社も予想は2割増という事でアルバイトを募集したが集まらず、増員なしで対応することとなった。毎日到着するゆうパックを連日の超勤で対応し、ほとんどの社員がぐたくたになりながら夜遅くまで配達した。この期間、交通事故も発生させず社員は丸となって協力して本当によく頑張った。

しかし問題が発生しなかったわけではない。一部の受託エリアがパンクし、社

員が配達の応援に入る事態も発生した。  
長中局は配達区が受託者エリアと社員エリアに分かれる。通常期は受託者エリアのゆうパックを社員が配達することはないが繁忙期に限って言えば一部の受託者エリアで社員が配達の応援に入っていた。

しかし、今繁忙期はギリギリまで受託者任せになりどんどんゆうパックは溜まっていった。結果、配達日指定のゆうパックも配達できない状況となり、お客様からはゆうパックが届かないという苦情が相次いだ。ここでやっと社員が配達の応援に入るわけだが当然遅れて配達したゆうパックはお客様に状況を説明しながら配達しなければならぬ。中には特定局を巻き込んだ苦情にもなった。



お客様にしてみれば同じ制服を着てゆうパックを配達している人間が社員なのか受託者なのかは関係ない。遅れた理由が知りたいのだ。「受託者だから」とか「人

手不足で」などはこちらの都合だけでお客様にはなんの関係もない。



12月21日の記者会見で長門正貢社長は東京と大阪で計約1万5000個の荷物の配達が最大半日遅れたことを明らかにした。それでも「致命的な遅れはない」と強調。配達員の確保についても「読みに対し100%近い人を集められている」と発言している。この発言を聞いて現場の社員はどう感じただろうか？少なくとも長中局では2割増のゆうパックに対しての人員確保はできていないし、ゆうパックの遅配も相次ぎ、最終的には管理者自ら配達に行くようになった。



例年であれば12月24日に年賀状の交付が始まる

てからはゆうパックは比較的落ち着くのだが、今年はおせちゆうパックまで増加し最後まで息つく暇もなかった。年賀状の減少と31日の休配日に助けられ「何とか無事に」元旦を迎えることができた。これが管理者を含めた現場で働く者の感想だろう。



1月5日に東京都内で開かれた経済3団体新年祝賀会で日本郵政の長門正貢社長は年末年始のゆうパックの急増について「何とか乗り切った」と本音を明かした。ゆうパックの急増に対し、会社はこれまで「大過なく配達できている」とか「ゆうパックの急増は想定内」など混乱は起きていないと平静を装っていた。

しかし本音は現場の悲鳴や利用者の苦情は把握して

いて年明けの会見で社長自ら本音が出たのだろうか。



2017年の年末繁忙は何とか乗り切ったが、2018年夏季、年末繁忙は乗り切れるのだろうか？

「人手不足は日本経済に対するチャレンジ。外国人雇用、ロボットなど経済を大きく転換する課題だ」長門正貢社長はこう語っているが、待たななしてやって来るゆうパックの波をどう防ぐか、人手不足解消の道筋を早く示してもらえないと現場は疲弊するばかりだ。

### 今後のスケジュール

- 1月12日(金) 春闘共闘会議旗開き 勤労福祉会館 18時30分から
- 1月13日(土) 郵政ユニオン長崎中郵支部旗開き 地区労会館2階 18時30分から

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。